

平成30年度 京都市予算案 事業概要

行財政局

事務事業名	明治150年記念京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展 〔 明治150年・京都のキセキ・プロジェクト ～市民の偉業が生んだ奇跡, 歩んだ軌跡～ 〕		
予 算 額	1,600千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算・局配分枠等の別	政策的新規充実予算
担 当 課	総務部 総務課(222－3045)		
【事業実施に至る経過・背景など】 京都市立芸術大学（以下「京都芸大」という。）は、明治13年に京都御所内に誕生した京都府画学校を起源とする芸術大学である。 芸術資料館では、明治時代から現代に至るまでに制作された卒業作品の一部を収蔵しており、今年、明治150年を迎えるに当たり、それらを活用した企画展を、芸術資料館、京都市動物園及びギャラリー@KCUA（アクア）において開催し、京都芸大の教育の足跡を市民に広く知っていただく。 【事業概要】 （１）「明治150年記念 京都芸大と京都市動物園（仮）」 京都芸大の起源である京都府画学校は明治13年に開校、京都市動物園は明治36年に開園し、ともにその歴史を明治期からスタートさせたことにちなみ、芸術資料館と動物園の連携企画を行う。 芸術資料館に収蔵されている、京都市動物園での写生を基に描かれた動物画の作品と、京都市動物園に収蔵されている、明治から昭和にかけて撮影された動物写真や映像資料等を活用し、学生たちの動物へのまなざしを追体験する収蔵品展を開催する。 ○実施時期（予定） 平成30年4月11日（水）～5月13日（日） （２）「移ろう足跡を探してーアーティストとたどる、明治から続く道（仮）」 芸術資料館に収蔵されている、明治時代の卒業作品等を中心とした展覧会をギャラリー@KCUA（アクア）において開催する。 本展では、招聘アーティストが、芸術資料館に収蔵されている約4,200件（約40,000点）の収蔵品のうち、明治期に制作された著名な卒業生の作品、京都府画学校以降の校歴資料及び明治時代の写真記録などの中から、京都芸大が創立以降辿ってきた道筋を手掛かりとしながら展示する作品・資料を検討し、展覧会を作り上げる。 ○実施時期（予定） 平成30年7月21日（土）～8月19日（日） 【参 考（他都市の状況・事業効果など）			

平成30年度 京都市予算案 事業概要

行財政局

事務事業名	新庁舎整備事業																				
予 算 額	8,442,451 千円	新規・継続の別	継続																		
		政策的新規充実予算・局配分枠等の別	局配分枠																		
担 当 課	総務部 庁舎管理課(222－3965)																				
[事業実施に至る経過・背景など] 耐震性能の不足をはじめとした諸課題を解消し、大規模災害時の拠点施設としての機能を確保するなど、市民のための市役所を実現することを目指すため、平成25年度に策定した「市庁舎整備基本計画」に基づき、新庁舎整備事業を推進している。 平成29年度は、平成28年度に公表した実施設計に基づき、本庁舎、西庁舎及び分庁舎の建設工事に着手した。 [事業概要] 平成30年度は、本庁舎、西庁舎及び分庁舎の建設工事を引き続き推進する。 <スケジュール> <table><tr><th>年度</th><th>平成24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th><th>～</th></tr><tr><td rowspan="2">内容</td><td rowspan="2">基本 構想 策定</td><td rowspan="2">基本 計画 策定</td><td colspan="2">基本設計 実施設計</td><td rowspan="2">解体工事 埋蔵文化財調査</td><td colspan="2" rowspan="2">各庁舎工事 ☆本庁舎は32年度 にオープン</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>				年度	平成24	25	26	27	28	29	～	内容	基本 構想 策定	基本 計画 策定	基本設計 実施設計		解体工事 埋蔵文化財調査	各庁舎工事 ☆本庁舎は32年度 にオープン			
年度	平成24	25	26	27	28	29	～														
内容	基本 構想 策定	基本 計画 策定	基本設計 実施設計		解体工事 埋蔵文化財調査	各庁舎工事 ☆本庁舎は32年度 にオープン															
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]																					

平成30年度 京都市予算案 事業概要

行財政局

事務事業名	「国際観光都市・京都」としての災害時避難誘導の推進(避難誘導標識等へのピクトグラム(図記号)の導入)		
予 算 額	8,000千円	新規・継続の別	新規
		政策的新規充実予算・局配分枠等の別	政策的新規充実予算
担 当 課	防災危機管理室(212-6792)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
平成28年度における本市の観光客数は、5,522万人と3年連続で5,500万人を超え、そのうち、外国人観光客については、661万人と、前年比37.1%も増加している。 また、平成31年にはラグビーワールドカップ、平成32年には東京オリンピックが開催されるなど、今以上に外国人観光客の増加が見込まれる中、外国人観光客に対する更なる防災対策の充実が必要である。 本市では、災害対策基本法に基づき、地震に伴う大火災等から、観光客等をはじめとするすべての人命を守ることを目的として、68箇所の広域避難場所を指定している(平成30年1月1日現在)ほか、大規模災害発生時の観光客等の帰宅困難者の一斉帰宅を抑制し、二次災害を防止するための緊急避難先(緊急避難広場、一時滞在施設)の確保や、帰宅困難観光客のための補助食品等の公的備蓄を行うなど、他都市に先駆けた、外国人を含む観光客等帰宅困難者対策を推進してきた。			
【参考】導入するピクトグラム (平成28年3月22日 JIS改定・制定) 避難場所  JIS Z 8210-6.1.4 災害種別：大規模な火災  JIS Z 8210-6.5.5			
[事業概要]			
避難誘導等の標識についても、日本語の読めない外国人観光客にも一目で分かるように、全国的に標準化された図記号「ピクトグラム」を広域避難場所の標示板及び誘導標識に新たに採用することにより、有事の際の迅速な避難誘導の一助とする。 具体的には、「ピクトグラム」のシールを作成し、既存の標示板169基及び誘導標識253基に貼付する。			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			

【参考】導入するピクトグラム

(平成28年3月22日 JIS改定・制定)

避難場所

災害種別：大規模な火災



JIS Z 8210-6.1.4



JIS Z 8210-6.5.5

平成30年度 京都市予算案 事業概要

行財政局

事務事業名	レジリエント・シティ推進事業		
予 算 額	20,000千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算・局配分枠等の別	局配分枠
担 当 課	防災危機管理室(212－6792)		
【事業実施に至る経過・背景など】 現在、平成30年度早期の「京都市レジリエンス戦略」の策定を目指して取組を進めており、平成29年10月には、戦略の柱となる、「焦点を当てて先行的に取り組む分野（ディスカバリーエリア）」を設定した。また、平成30年1月には、ディスカバリーエリアと併せ、「レジリエント・シティ」の取組を周知し、市民ぐるみの取組として盛り上げていくため、「レジリエント・シティ京都市民フォーラム」を開催した。 【事業概要】 平成29年度に引き続き、ロックフェラー財団や世界の100RC加盟都市とも連携しつつ、市民、関係団体等との議論や協働を進め、「京都市レジリエンス戦略」を策定していくとともに、市民ぐるみで戦略の実行を推進し、様々な手法により「レジリエンス」という概念を市民の間に浸透させていく。 【参 考（他都市の状況・事業効果など）】			